

青井記念館美術館

はぐくみ会だより

第 8 号

平成11年11月1日



「^{おん}ねるこ」 木彫彩色

村井辰夫 一九四四(明治三十七)～一九九八(平成十)

高さ 97 cm
巾 34 cm
奥行 35 cm

所蔵作品紹介 (7)

同窓生ギャラリー

銅の彩りを求めて展

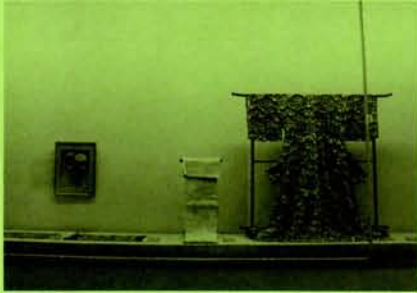
高木錦司染芸展

鑄金家 般若保
和染のうるおい

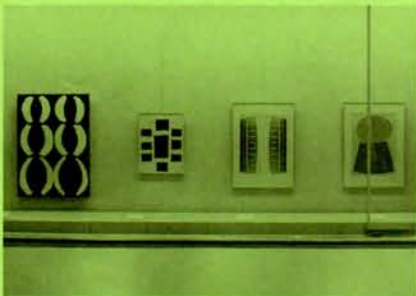
が開催される

鑄金家般若保氏（昭和三十四年電気科卒）の銅の彩りを求めて展が五月十五日より三十日まで開催されました。初期の作品から現在まで二十三点余りを出品され、氏の特徴である吹分技法による数々の作品に観覧者の注目を集めていました。

その後六月五日から七月四日まで高木錦司氏（大正十三年図案科卒）染芸展―和染のうるおい―として染額・着物・帯・座布団など多彩に展示され、和染の美しさを充分堪能していただける展覧会となり好評でした。



「高岡工芸高校と高岡の洋画家たち」展は本校卒業生、島田四郎・藤森兼明・鶴谷登など及び旧職員と高岡にゆかりある洋画家南桂子・高倉一二・松原龍夫など二十三作家・三十二点の作品が展示され、あらためて洋画界の流れと活況が認識されました。



第3回 県立近代美術館移動展概況

催事案内

特別展

◎ 畑 正吉の世界展

十二月四日(土)

平成十二年四月二日(日)

常設展

□ 明治から大正期までの作品展

本校創立期の参考作品を中心に

十二月四日(土)

平成十二年四月二日(日)

□ 卒業制作展

工芸科・デザイン科の卒業制作優秀作品

平成十二年三月五日(日)

四月二日(日)

同窓生ギャラリー

◇ 十二町仁三

袋 謹 二 二人展

十二月四日(土)

平成十二年一月十六日(日)

◇ 林兼二・富士子展

― 楓と日本画と ―

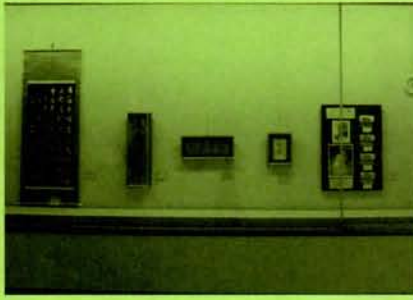
平成十二年一月二十二日(土)

二月六日(日)

◇ 工芸高校と工業デザイン教育の流れ展(予定)

平成十二年二月十一日(祝)

二月二十七日(日)



特別展 納富介次郎の心展

初代校長納富介次郎を紹介する特別展が五月十五日より八月一日まで開催されました。

幼少より晩年までの作品を複写により紹介又、市美術館から介次郎筆の掛軸をお借り併せて本校収蔵の掛軸・色紙等も展示しました。その他業績をしめすものとして、創立四校の紹介・産業界への貢献を示す参考品、などと関連して創校時の先方の作品も展示しました。この特別展から初代校長について知る手がかりとなれば幸せです。

第2回 教職員美術展も好評

昨年度より開催された本校の教職員美術展は、九月十八日より十月三日まで開催されました。日本画十点・洋画五点・彫刻四点・工芸八点・刻字三点・デザイン二点・写真四点合計三十六点展示されました。

写真では、八十田校長がデジタルカメラの研究として新しい写真技術を発表し、洋画では、吉川先生(ア)の百号の大作は三人の人物を配した「象」シリーズの力作、葛井先生(建)の工芸作品は新しい造形を目指した秀れた作品、石黒先生(化)の日本画は、女性的で優しい繊細な美しさで好評でした。

会場一杯に展示された力作にさすが工芸学校の先生だとの評も聞かれました。



所蔵作品紹介 (7)

表紙

「拗る 兒」 木彫彩色 村井辰夫

第二次世界大戦が終わり、御子息の和夫君をモデルに制作され後年手を加えて完成された作品。等身大に彫刻し彩色された「スネる子」は幼児の一つの瞬間を巧みにとらえ、顔の動き、目の表情、首の傾きや肩の動きなど実に細かい部分にも見ごたえある作品である。

戦時中の作家活動も東京では困難となり昭和二十年から二十六年まで郷里の城端に疎開されている。その間に彫刻されたと考えられる。

作者紹介

明治三十七年城端町に生まれる。大正十二年本校木工科第二十六回卒業、後に東京美術学校彫刻科に学ぶ。

春陽会、帝展に出品、昭和二十六年「創型会」を設立し晩年まで作品の発表の場とし、一方新人の指導に携わる。

終戦後疎開されている昭和二十一年には富山県展の創設に参画され、又審査員として富山県展への多大な功績がある。

その当時少年であった岩城信嘉(彫刻家)氏は薫陶を受けた一人である。

追記 村井氏は昨十年七月五日逝去されました。謹んで御冥福をお祈り申し上げます。このたび彫刻家岩城氏の口添えにより御子息和夫氏から三点九月二十四日寄贈していただきました。

寄贈作品あいつく

村井辰夫(辰男)氏

(大正十二年木材工芸科卒) 作

彫刻「拗る兒」木彫彩色

〃「睥」〃

〃「母と子」〃

以上三点 村井和夫氏より寄贈



「母と子」

国田四郎氏(大正十二年図案科卒)作

日本画「鶏頭二鳩」軸装

伝 竹村白鳳氏(武二)

(大正三年図案科卒) 作

日本画「山羊と天平婦人の図」軸装

篁 牛人氏(浄信)

(大正十年図案科卒) 作

水墨画「蘭」額装

以上三点 高岡市内の開業医徳田三郎氏より寄贈

第六回青井中美展 迫る

開催期間 平成十一年十一月十八日(木)

十一月二十八日(日)

青井大賞 一点 チューリップテレビ 優秀賞 一点

富山県知事賞 一点 優良賞 二点

富山県教育委員会 教育長賞 一点 富山新聞社優良賞 二点

最優秀賞 一点 チューリップテレビ 優良賞 二点

優秀賞 一点 佳作 十點

富山新聞社優秀賞 一点 学校奨励賞 三校

はぐくみ会会員 募集のお知らせ

はぐくみ会では会員を募集しています。申し込まれた日から一年間会員となります。主な活動

- 1 青井記念館美術館への協力・支援
- 2 中学生美術展(青井中美展)への支援
- 3 はぐくみ会だよりの発行

特典

- 1 企画展等の案内
- 2 はぐくみ会だよりの配布

年会費

一般会員(個人) 二、〇〇〇円

特別会員(企業、団体等) 一〇、〇〇〇円

お問い合わせ・申し込み先

青井記念館美術館はぐくみ会事務局

ビデオが設置されました!

六月下旬、ビデオが購入され小劇場コーナーを設け、視聴していただけます。ご覧いただくテープは、卒業生の工芸作家の方々から寄贈いただいたものです。是非ご利用下さい。

編集後記

本年度になり相次ぐ寄贈作品と同窓生ギャラリーや特別展、常設展など、意欲的な運営となりました。

村井辰夫氏遺族から三点の寄贈品は、現在尚美展関連展に特別陳列し皆様方に紹介しています。同窓生ギャラリーでは、高木氏九十四才までの作品を集大成し、展示いたしました。また般若氏の吹分技法一筋は大変好評でありました。

今後とも充実した美術館となりますよう皆様方のご助言をお願いします。

編集発行

富山県立高岡工芸高等学校
青井記念館美術館はぐくみ会

住所 933-8518 高岡市中川一-1-10

TEL (0766)21-1630(内線85)

FAX (0766)21-1631

*青井記念館のホームページを開設しております。
<http://www4.justnet.ne.jp/~kougei-2/>